

## 1 講評

### ①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

### ②施設名等

名称	: 同仁会子どもホーム	種別	: 児童養護施設
施設長氏名	: 谷 由紀子	定員	: 26名
所在地	: 茨城県高萩市秋山712-1	TEL	: 0293-23-3254

### ③実施調査日

平成25年12月20日 ~ 平成27年2月27日

### ④総評

#### ◇特に評価が高い点

まるなか委員会(仲間づくり委員会)を組織して、生と性の視点から子どもの発達段階ごとに月1回話し合いの機会を設け、性に関する正しい知識を子ども達に伝えている。

学齢前の幼児には年齢ごとの発達段階に応じた目標を定め、適切なアセスメントを実施し、担当職員を中心にグループ会議で検討して客観的視点をもって自立支援計画を作成している。

話し合いのできる年齢の子どもの場合は、子どもと話し合いをしながら、将来を見据え「子どもにとっての最善の利益は何か」を考えながら、長期目標を設定しての自立支援計画を作成するとともに、養護施設児童指導効果評を基に、定期的実施状況の振り返りや評価を行い、見直している。

施設全体として長年にわたる努力が地域に根付き、住民から深く信頼され、学校のPTAの役員や子ども会の役員など重要な役割を職員が担っている。

施設の行事には地域住民の協力や参加のもとで盛大に実施され、地域のイベントとしても楽しまれている。

施設長は入所してくる子どもの状況を適切に把握しており、朝や夕方、土曜日や日曜日の子どもが在園する時間帯や曜日に職員の配置を多くするなど、子ども本位の勤務体制を整えている。

職員は勤務外でも気になることがあれば子どもと関わり、年末年始の帰省時でも大晦日や元旦を子どもと一緒に過ごすなど、子どもの気持ちにそった養育・支援に積極的に取り組んでいる。

#### ◇改善が求められる点

職員一人ひとりに合った計画的な研修受講体制を整えることを期待します。

法人の運営理念や基本方針、事業計画等を子ども等にも配布し、子どもにも分かり易い言葉で伝え、十分に理解ができるような方法を検討することを期待します。

### ⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回第三者評価を受審し、職員一人ひとりが業務の振り返りができ、良い機会となりました。

施設の強み、弱みを第三者からご指摘を受けることは、施設がより健全運営するにあたり大変よかったですと思っています。

高い評価を受けた点は今後も一層努力していきたいと思っています。

法人の運営方針や事業計画を保護者や子どもに分かりやすく伝える工夫等指摘された点について改善していきたいと思っています。

また、子ども達のアンケートの結果も真摯に受け止め、職員一同子どもの最善の利益のために頑張っていきたいと思っています。

### ⑥第三者評価結果(別紙)

(別紙)

## 第三者評価結果

### 1 養育支援

(1)養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保証している。	a
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

学校から戻ってくる際に、事務室に「ただいま」と元気に声かけをする子どもの姿が見られるなど、いつも職員に見守られているという安心感が笑顔となって表れている。

中学生には自分で洗濯をすることを促がしたり、調理の機会を設けたりして、生活技術の習得を日々の生活の中で身に付けるよう取り組んでいる。

小学生でも施設の玄関等の掃除を手伝うなど、自然な方法で生活スキルの習得を目指している。

主体性を認めている高学年の日課は、秩序ある生活の範囲内で、子どもの意思をより一層尊重したものとなるよう期待します。

(2)食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a

(3)衣生活

① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a

(4)住生活

① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

献立や食材の購入、調理を職員が行うことで、台所仕事をする姿を子どもが日常的に目にすることができ、子どもと一緒に手伝う機会も多く、食を中心として家庭的な雰囲気の中で生活をしている。

子どもの年齢や状態に合わせた居室配置をしたり、宿直に男性職員を1人配置するなど、子ども一人ひとりが常に伸び伸びと生活ができるように配慮をしている。

月1回飲食店での外食の機会を設けて正しい食事のマナーを習得するための支援をしたり、誕生日には、その子の好物を献立に反映させたりして、食事を楽しめるよう支援をしている。

発達段階に応じて洗濯やアイロンかけ、補修など、衣類の自己管理ができるよう支援をしている。

空き室等を利用し、必要な場合は個人の空間が確保できるよう配慮することを期待します。

(5)健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6)性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>感染症対応マニュアル等を整備するとともに、感染症や食中毒が生じないように努めている。  年齢や発達段階に応じて異性を尊重し、生と性についての正しい知識や関心が持てるよう、職員は生と性教育のあり方等について検討したり、必要に応じて勉強会を行っている。  まるなか委員会(仲間づくり委員会)を組織し、生と性の視点から子どもの発達段階ごとに月1回話し合いの機会を設け、生と性に関する正しい知識を得る機会としている。</p>	

(7)自己領域の確保	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
(8)主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している。	b
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>持ち物や個人が使用する物は、子ども一人ひとりの所有としている。  子ども会議は、職員指導のもとでの会議になっているが、行事についてや余暇の過ごし方などは、子どもが主体的に決められるようにしている。  子どもの発達段階に応じて小遣いを自己管理し、経済観念が身に付くように支援をしている。  退所や成人した時など、機会が来た時に懐かしむことが出来る資料として、成長過程を記したアルバムや思い出箱などの一層の整備を期待します。</p>	

(9)学習・進学支援、進路支援等	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>幼児にはその子に合った教材の提供など、細やかに配慮をして支援をしている。  希望する中学生には学習塾へ通うことも可能にしたり、高校生のアルバイトも自由に行えるようにしたりしている。  進路選択に当たっては、必要に応じて親や学校、児童相談所と連携を図りながら、子どもの最善の利益にかなった進路の自己決定に向けて支援をしている。  年齢や理解力に応じて落ち着いて勉強ができる環境への配慮や、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくような支援を期待します。  職場実習や職場体験の拡大に向け、事業主などと密接に連携して支援することを期待します。</p>	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	b
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>心理担当職員を配置してきめ細かな対応をしている。  心理担当職員は、子どもと1対1でじっくり話し合うために夜10時過ぎまでホームに留まり、ゆったりした時間に子どもから話を聞き、子どもが安心して就寝ができるよう支援をしている。  引き取りの可否については、児童相談所との連携により判断が不統一にならないようにしているが、保護者の強引な引き取りに際しての危機感が薄いため、全職員で具体的な対応について話し合うことを期待します。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>家庭に復帰した後でも家庭訪問をしたり、学校を訪問したりして子どもが安定した生活をしているかどうか見守り、必要に応じた支援を継続して実施している。  現在の職員配置では困難なこともあると思われるが、退所後に一人暮らしになった子どもの家庭を訪問したり、職場を訪問するなど、積極的な支援の継続を期待します。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>家庭支援専門員が中心になり、家族構成や家庭環境などを把握し、親子関係の再構築が目指せる場合には外泊を多くして生活スキルについてのアドバイス等を意識的に行ったり、親には学校行事への出席を促したり、家庭訪問をしたりして積極的に関わっている。  親子関係の再構築へつながる「親子宿泊」や「週末帰宅」などの取り組みを、市町村とも連携しながら、柔軟に行えるような仕組みづくりを期待します。</p>	

### 3 自立支援計画、記録

(1)アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a
③ 自立支援計画について、定期的な実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2)子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>学齢前の幼児には年齢ごとの発達段階に応じた目標値を定め、アセスメントを実施し、担当職員を中心にグループ会議で検討して客観的視点をもって自立支援計画を作成している。</p> <p>話し合いのできる年齢の子どもの場合には、子どもと話し合いをしながら将来を見据え、長期目標を設定して自立支援計画を作成し、養護施設児童指導効果側定表を基に定期的な実施状況を振り返り、評価をしている。</p> <p>自立支援計画の見直しは、子どもと一緒に振り返ったり、子どもの意向を確認するとともに、保護者の意向を踏まえて行うことを期待します。</p>	

### 4 権利擁護

(1)子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2)子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を配慮する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子どもを尊重した基本姿勢を法人の経営基本方針に定め、職員は方針を常に意識して「子どもの最善の利益は何か」を話し合ったり、子どもと一緒に話し合いをしながら、子ども一人ひとりの5年～10年先を見越しての最善の利益を考えてた養育・支援を実践している。</p> <p>子ども一人ひとりのプライバシーを大切にしている意識が日々の関わりの中にあり、ベッドの位置や机の置き場所等を子どもと一緒に考え、ドアを開けても寝ている姿が見えないようにするなどの配慮があったり、掃除の際の物の動かし方に約束ごとを設けるなど、常に子どもの意向を尊重しながら支援に取り組んでいる。</p> <p>通信や面会に関するプライバシー保護や、生活場面におけるプライバシー保護について、設備面での配慮や工夫に組織的に取り組むことを期待します。</p>	

(3)入所時の説明等	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4)権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5)子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6)被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7)他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>入所前に「施設生活の手引き」を用いて丁寧に説明したり、保護所等での面会時に「髪は長くしたいか」など、施設での生活について具体的な希望を聞いたり、担当職員と1対1で日用品の買い物をしたりしながら、施設全体で温かく迎える体制を整えている。</p> <p>子どもの意見や要望に対しては、全職員で検討し迅速に対応しているが、届け出や通告制度についての対応マニュアル等を整備し、研修会で職員に周知するとともに、分かり易い資料を子ども等に配布して説明することを期待します。</p>	

## 5 事故防止と安全対策

(1)事故防止と安全対策	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>感染症対応マニュアルを整備したり、不審者対応のセンサーを取り付けたり、警察との連携体制を整えたり、緊急時の連絡網を作成したりするなど、施設内での安全確保を図るとともに、通学時の安全確保や危険場所の点検等、組織として取り組んでいる。</p> <p>安全や事故防止に関する研修に職員が出席しており、薬品や刃物などの危険物の収納・管理にも常に気を配っている。</p> <p>組織として子どもの安全を脅かす事例を収集し、情報を共有する仕組みを整備して不測の事態に備えるとともに、地域の関係機関と連携して必要な協力が得られるようより一層の努力を期待します。</p>	

## 6 関係機関連携・地域支援

(1)関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
<p>(2)地域との交流</p>	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
<p>(3)地域支援</p>	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>小学校や中学校、高等学校のPTAの役員をそれぞれに引き受けている。</p> <p>小学校や中学校の教師とは送迎時や家庭訪問を通しての面談や校外での付き合い等を通して常に連携を密にし、情報を共有しながら共同で子どもを育てることを意識している。</p> <p>職員は、地域の子ども会のリーダー的存在であり、駅伝大会の指導をしたり、七夕祭り等の行事に年数回参加している。</p> <p>施設で開催するホームパーティーには、子どもや卒業した子ども達、ボランティア、地域の住民が多数出席しており、盛大に行われている。</p> <p>児童家庭支援センターとの連携により、地域の福祉ニーズを把握しているが、施設として地域住民に対する相談事業を実施するなど、具体的な福祉ニーズを把握して対応することを期待します。</p> <p>地域の関係機関や団体について、子どもの状況の変化に速やかに対応ができるリストや資料を作成することを期待します。</p>	

## 7 職員の資質向上

(1)職員の資質向上	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>新規採用職員研修や3年次職員研修、5年次職員研修等定められた研修以外にも、職員が受講したい研修には参加ができるようになっており、学会参加や資格取得の為の研修、スキルアップを目指しての研修など、職員はそれぞれの希望に応じた研修を受講している。</p> <p>スーパービジョンの体制は確立していないが、施設長を中心として各職員へのスーパービジョンを実施するとともに、先輩職員が新規採用職員に付き添、日常業務を通して援助技術の向上を目指している。</p> <p>施設が目指す養育・支援の実現のため、施設が一人ひとり職員に求める基本姿勢や援助技術の水準、知識の質や量、専門資格の必要性にそった体系的・計画的な研修体系を整備することを期待します。</p> <p>組織化されたスーパービジョンの体制を確立することを期待します。</p>	

## 8 施設の運営

(1)運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(2)中・長期的なビジョンと計画の策定</p>	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	a
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	a
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>法人の運営理念に基づいた経営基本方針が明確に示され、基本方針の実現に向けた中・長期計画を作成している。</p> <p>事業計画においては、職員へのアンケート調査なども取り入れたり、前年度の反省や次年度への希望などを聞いて作成し、全職員に配布して共有している。</p> <p>運営理念や基本方針、事業計画を子ども等にも配布し、分かり易い言葉で伝えるなど、十分な理解を得る方法を検討することを期待します。</p>	

(3)施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4)経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長は入所してくる子どもの状況を適切に把握しており、朝や夕方、土曜日や日曜日の子どもが在園する時間帯や曜日に職員の配置を多くして、子ども本位の勤務体制を整えるなど、指導力を発揮している。</p> <p>施設長は法令遵守の視点で施設運営に関する研修に積極的に参加している。</p> <p>事業の運営管理や経営管理、組織の運営等について、公認会計士等の外部の専門家による監査を実施し、改善課題について施設全体での取り組みを期待します。</p>	

(5)人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	a
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6)実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>親睦会が組織され、各種取り組みが行われているほか、年2回の8連休が確保されるなど、福利厚生の充実を図っている。</p> <p>職員提案募集要項が定められているほか、職員面接も年2回行われ、職員が常に仕事に対して意欲的に務められるように配慮している。</p> <p>客観的な基準に基づき、6か月に1回人事考課が行われているが、考課対象職員へのフィードバック等、透明化が図られることを期待します。</p> <p>実習生の受け入れ担当者が決められ、養成校等と連携しながら実習生を受け入れているが、内容全般が計画的に学べるプログラムを作成することを期待します。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるように仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>第三者評価を積極的に受審し、全職員による自己評価も実施している。          運営マニュアルに養育マニュアルや業務マニュアルが整備され、標準的な養育・支援の実施方法が文書化しており、養育・支援について標準的な実施方法が確立している。          少なくとも年に1回、標準的な実施方法を職員や子どもからの意見・提案に基づいて見直すことを期待します。          自己評価や第三者評価の結果を分析し、改善に向けた組織的な取り組みを期待します。</p>	